

問題解決の活動を通して、資質・能力を育成する理科授業 ～ 理科の見方・考え方を働かせて ～

1 はじめに

昨年度、感染症対策が徐々に緩和されていく中、4回の研究授業・協議会、研究授業に向けての事前研究会を通して研究を進めてきた。しかし、事前録画の研究授業動画を基に協議をしたり、感染症対策のために事前に集まることが難しかったりしたため、十分に成果と課題を整理することができなかった。そのため、今年度も同じ研究主題を設定し、さらに研究を深めていくこととした。また、昨年度の実践より、改めて「実体験すること」の大切さを確認することができたため、一人一実験など、新しい生活様式に合わせた学習活動を工夫をしていくことを共通理解して、研究をスタートさせた。

2 研究の方法

(1) 資質・能力の具体を明らかにする

学習指導要領に記載された育成したい資質・能力を、より具体的な児童の姿を想定して指導案に記載することとした。また、指導と評価の一体化を図るため、A基準・B基準の評価を明記し、B基準に満たない場合についての支援についても具体的に記載することとした。2つの取組で、授業者が授業を組み立て、工夫する際に具体的な指導・支援を考えやすくなる。

(2) 見方・考え方を働かせている児童の姿を明らかにする

見方・考え方を働かせることを目的とするのではなく、深い学びに向かうための授業の工夫を、そこで働かせる見方・考え方で整理することとした。領域、教材や学習の場面に応じて働かせたい見方・考え方と、それを働かせている児童の姿を具体的に捉えておくことで、授業者が見方・考え方を働かせている児童への肯定的な声掛け、価値づけをすることにつながる。さらに、それを学級全体に広げていくことで資質・能力を育成する理科授業を作ることができる。

3 研究の日程

授業日	場所	内容
6月9日	西一之江小学校	6年「植物の水の通り道」
10月6日	南篠崎小学校	3年「音の性質」
11月10日	大杉東小学校	3年「磁石の性質」
1月19日	小岩小学校	4年「金属、水、空気と温度」